

宇都宮市立御幸が原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○主体的・対話的で深い学びを追究する授業づくりの推進	○友達の意見に対して温かい反応を示し、自分と友達の考えをつなぎ、ねらいにせまるために授業の質を高めていく指導過程の工夫 ○他の考えを的確にとらえ、比較したり、関連付けたりしながら自分の考えをもち、根拠を挙げて自分の考えを表現する能力・態度の育成 ○言語活動の充実を目指した授業を工夫し、校内研修の充実と、一人一授業公開の実践と授業反省会による指導法の共有化 ○各授業における「めあて」「まとめ」「振り返り」の提示・活動、板書・ノート指導の工夫	・設問の難易度にかかわらず、得た知識をもとに比較したり、関連付けたりする活動に難しさを感じている。 ・他の考えを的確にとらえること、そこから始まる思考と表現する力が弱い傾向にある。 ・相手意識を伴う読み取りや表現する力が弱い傾向にある。
○個に応じた指導の工夫と学習内容の定着を図る指導の強化	○授業形態の改善と発言の奨励・称賛 ○話し合い活動のさらなる推進 ○読書活動の推奨や文章の読解練習 ○文章を書く活動の推進 ○家庭での「復習」の奨励・啓発	・深い思考を伴う設問や、長文理解を伴う問題など、根気が必要な問題に対して、苦手意識が強い傾向がある。 ・問題に対して自分が理解したことや考えを表現する力が劣っている。理解したことを一旦子ども自身が納得し定着した上で表現する段階でできない場合が多い。表現まで時間がかかったり、力不足から表現に至らない場合が多い。 ・漢字や作文等の「書く」活動についての力不足が見られた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・全般的に定着度が低いために、全体での主体的・対話的で深い学びを導く話し合い活動の設定が難しい現状がある。しかし、学力の全体的な底上げをねらい、各学級で国語に限らず多くの教科において子どもが主体になる話し合いを意図的に繰り返して設定する必要がある。
- ・各教科での、話し合いを中心にすえた単元計画の見直しや、毎日の学習活動での意図的な話し合い活動の設定を試みる。話し合いでは、相手意識を重視し、話し手の意図や目的を考えながら聞く活動になるように助言する。また、話し合い活動自体が、目的化しないように、学んだことをしっかりと振り返らせるための「書く活動」が一層重要であるので推進していく。
- ・表現することの中でも「書く」活動が足りていない状況があることから、話し合いをした上で「書く」という活動を重視し、意図的に設定していく。教科を問わず、図説して学習内容を理解する活動を推進することで、書くことによる学習内容の定着度アップをねらう。
- ・漢字や言葉の表現にかかわる基礎的・基本的な力を伸ばすために、ドリル等での定着を一層図っていく。